



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社



## 抗プリオン抗体（クローン 7A1）

免疫動物：マウス

モノクローナル抗体 精製 IgG

65-903

50 µg

65-904

250 µg

異常型プリオン蛋白質（PrP<sup>Sc</sup>）が感染すると神経細胞にある正常型プリオン蛋白質（PrP<sup>C</sup>）が PrP<sup>Sc</sup> に変換されることにより感染が進行する（1）。PrP<sup>C</sup> が PrP<sup>Sc</sup> に変化すると PrP<sup>Sc</sup> が蓄積すると同時に PrP<sup>C</sup> が欠乏することによってプリオン病が引き起こされると考えられている。

PrP<sup>C</sup> は哺乳動物間で高い相同性を持っており、神経系の神経細胞やグリア細胞に高い発現がみられるだけでなく、免疫系や生殖系にも広く発現する膜蛋白質として知られる。PrP<sup>C</sup> には2箇所の糖鎖付加部位が存在するため、ウェスタンブロッティングでブロードなバンドとして観察される（図1）。

ラビットの腎臓細胞 RK13 に GPI アンカー欠損ヒト PrP を発現させ、培地から精製した PrP を抗原としてマウスを免疫し、ハイブリドーマを作成した。7A1 は、兵庫県立大学環境人間学部北元憲利教授によって単離されたクローンである。

本品は 7A1 をマウス BALB/C の腹水へ注射し、その腹水から IgG を精製したものである。

### 用途

- 1) ウェスタンブロッティング
- 2) ELISA

性状： PBS (0.15M NaCl, 10mM リン酸ナトリウム緩衝液(pH7.2)) , 50% Glycerol,

濃度： 1.0 mg/ml

保存： 4 （長期保存の場合は-20 ）

### 文献

1. Sakudo A, et al. J Vet. Med. Sci. 69, 329-337 (2007) Review
2. Inoue Y, et al. Jpn. J. Infect. Dis. 58, 78-82 (2005)
3. Grathwohl KU, et al. J Virol. Methods 64, 205-216 (1997)

図1 抗プリオン蛋白質抗体(7A1)のウェスタンブロッティング

2,000 倍希釈で使用

プリオン蛋白質過剰発現 RK13 細胞抽出液

コントロールベクター導入 RK13 細胞抽出

RK13 細胞抽出液

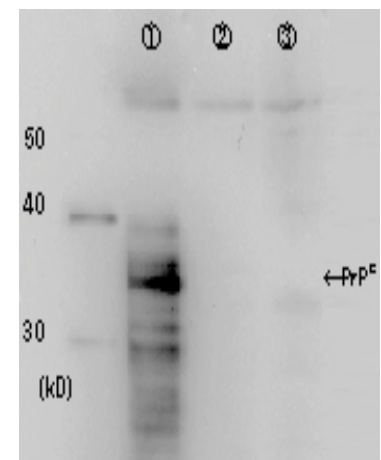


図 1